

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

▶ 7つの重要取組課題

重要取組課題の策定

取り組み目標の設定

今後の課題解決に向けて

●健康・栄養

●環境

●人権

●供給

●次世代育成

●人財育成

●コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

7つの重要取組課題

7つの重要取組課題

「かがやく“笑顔”のために」

このコーポレートスローガンに基づき、森永乳業は7つの重要取組課題を策定しました。次の100年に向けて、サステナブル(持続可能)な社会をつくるため、そして人々の健康に貢献する企業でありつづけるための指針となります。

●健康・栄養

「かがやく“笑顔”」を実現する機能性とおいしさを兼ね備えた商品を開発・販売し、健康・栄養をお届けします。

- ・「栄養価の高い商品」「嗜好性の高い商品」に対する社会のニーズは高く、また、中長期的には高齢社会が加速することは避けられません。森永乳業独自の研究開発力で、心身ともに健康な社会生活の実現に貢献することをめざします。
- ・人口減少・高齢化が進む中、商品力だけでなくライフスタイルを変革する技術やサービスの創造・提供をめざします。

●環境

省エネルギー、廃棄物削減に取り組みながら安全・安心な商品を製造し、サステナブルな社会づくりに貢献します。

- ・「気候変動」「森林」などに与える影響を考慮した企業活動を実践します。
- ・限りある資源を有効に活用するためにも、食品ロスの削減に取り組むことを急務とします。

●人権

人権に配慮した事業活動を行い、多様性を尊重し、あらゆる人々が能力を十分に発揮できる環境をつくります。

- ・持続可能な社会形成のために、「人」は特に重要な経営資源だと考えています。すべての人の「かがやく“笑顔”」を実現するために、ダイバーシティ(多様性)の推進をはじめ、さまざまな人権課題を社外関係者とともに協力して取り組んでいきます。



●供給

安全・安心を重視した原材料調達と製造を経て、高品質な商品を安定的にお届けします。

- ・将来的な乳原料の不足に備え、新たな乳原料を使いこなせるよう研究所や工場などと協働しながら、配合設計の研究を重ねています。
- ・安全は、当社の中でも最も重要な取組項目です。現在も行っている安全への取り組みを、引き続き実施していきます。



●次世代育成

サステナブルな社会づくりに貢献する子どもたちの健やかな成長を応援します。

- ・子どもたちの明るい未来のために、森永乳業は心身の成長やキャリア教育、そして子育てを支援する活動を行っています。



●人財育成

「かがやく“笑顔”」を実現する人財の育成に力を入れていきます。

- ・新入社員から経営層まで幅広く人財を育成することは、企業の持続的な成長につながります。一人ひとりの適性を活かし、能力をのばすことのできる制度構築をめざします。



●コーポレート・ガバナンス

持続的な成長と企業価値の向上の実現に向けて、実効性の高いガバナンス体制の整備および充実に継続的に取り組みます。

- ・ステークホルダーとの対話、積極的な情報開示を通して、適切なコミュニケーションをはかっていきます。
- ・経営層からの継続的なメッセージとともに、ルールの整備、従業員の意識の醸成、サプライヤーとの公正な取引など、内部統制の構築に取り組んでいます。



〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

7つの重要取組課題

▶ **重要取組課題の策定**

取り組み目標の設定

今後の課題解決に向けて

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

重要取組課題の策定

「かがやく“笑顔”」をめざして求められる7つの課題を策定

森永乳業は、2017年4月、新コーポレートスローガンを含むグループ理念体系を策定し、発表しました。

2018年、次のステップとして行ったのが、重要取組課題の策定です。

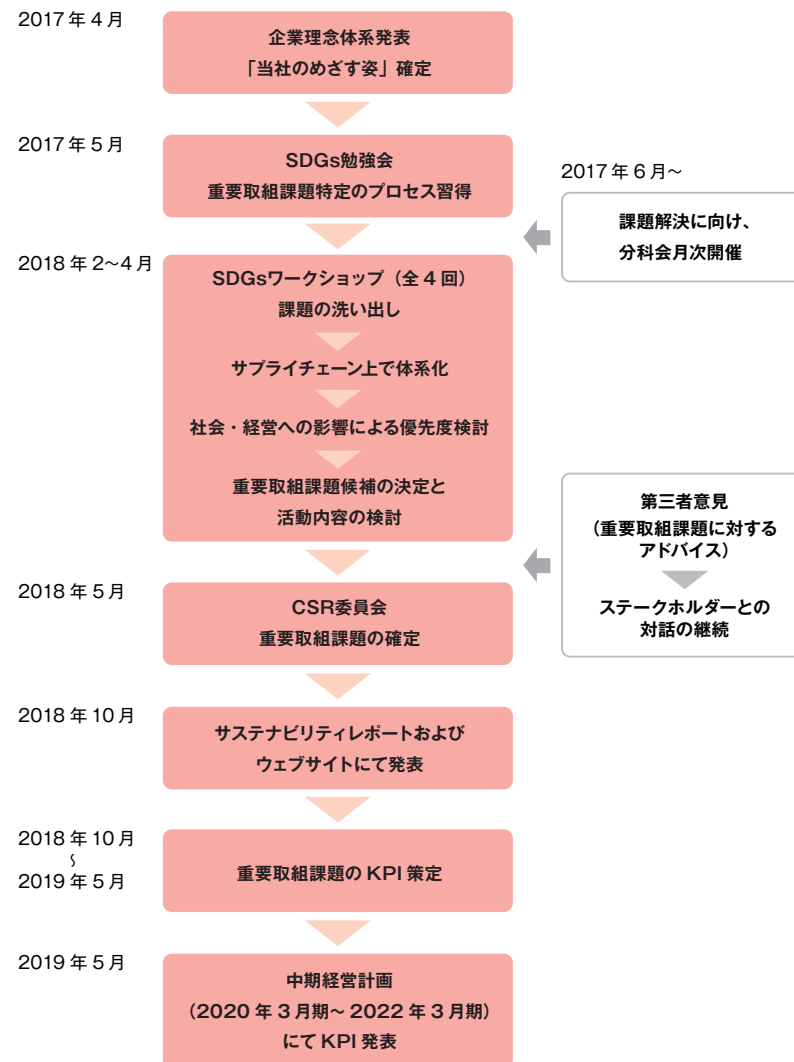
重要取組課題は、私たちの大きな目標である「かがやく“笑顔”あふれる豊かな社会の実現」をめざすために特に優先的に取り組むべき項目です。

策定にあたっては、計4回にわたるワークショップを開催。さまざまな部署から約30名の従業員が参加し、取り組むべき課題を抽出しました。そして協議を重ねて7つの大きな課題を策定し、CSR委員会で承認されました。

持続可能な社会への貢献をめざして

策定にあたっては、行動指針はもちろんのこと、GRIガイドライン、ISO26000、国連が提唱するSDGsコンパスなどを参考にしました。策定した重要取組課題への取り組みを通じ、森永乳業が企業市民として持続可能な社会の実現に貢献できると、私たちは考えています。

重要取組課題策定の流れ



〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

7つの重要取組課題

重要取組課題の策定

取り組み目標の設定

今後の課題解決に向けて

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

サプライチェーンでの課題抽出

原材料の調達から製造、販売、廃棄に至るまで、森永乳業の活動は多岐にわたります。7つの重要取組課題を策定した際、サプライチェーン全体で課題解決のために当社が行う具体的な取り組みを決め、その中で特に重要だと思われる項目を特定しました。

各部署・部門が連携し、それぞれの課題に取り組んでいます。

サプライチェーンにおける重要取組課題と具体的な取り組み



WEB → 詳細はCSRサイトへ
 ▶ <https://www.morinagamilk.co.jp/csr/materiality/>

持続可能な開発目標 (SDGs)

SDGs (Sustainable Development Goals) は、国連が定めた持続的な開発に関する17の目標と169のターゲット。2015年に採択され、2030年までに達成することをめざしています。「誰一人として取り残さない (Leave no one behind)」を基本とし、経済格差、持続可能な消費や生産、気候変動対策など、世界が抱える問題を解決するために、各国政府やNGOだけでなく、民間企業もまた日々の活動を通して、取り組んでいくことが求められています。森永乳業は、このSDGsの達成に寄与することをめざしています。



〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

7つの重要取組課題

重要取組課題の策定

取り組み目標の設定

今後の課題解決に向けて

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

取り組み目標の設定

2019年度から新しい3カ年の中期経営計画がはじまりました。中期経営計画では、新たな基本方針の中に「経営理念実現に向けてESGを重視する経営の実践」を盛り込みました。この基本方針のもと、7つの重要取組課題の考えを示すとともに、それぞれの課題に対する取り組み目標(KPI[※])を設定しました。

※ KPI (Key Performance Indicator)
活動の進捗状況や達成度を客観的に評価・管理するための数値指標。

健康・栄養

基本的な考え方

「かがやく“笑顔”」を実現する機能性とおいしさを兼ね備えた商品を開発・販売し、健康・栄養をお届けします。

活動の方向性	KPI
健康寿命延伸に対する貢献	栄養機能性素材を取り入れた商品の市場投入 健康維持に寄与する栄養機能性素材についての情報発信
乳幼児の健やかな成長への貢献	ビフィズ菌(M-16V)の提供。国内外で120以上の施設での提供継続



環境

基本的な考え方

省エネルギー、廃棄物削減に組み込みながら安全・安心な商品を製造し、サステナブルな社会づくりに貢献します。

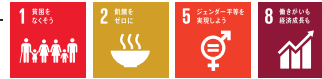


活動の方向性	KPI
生産部門を中心としていた環境活動を、連結対象会社全部門に拡大	ISO14001 認証事業所： 2030年度までに連結対象の全事業所で取得 2021年度までにグループ全体でスコープ1、スコープ2を把握
生産における環境負荷削減	CO ₂ 排出量原単位削減： 2021年度までに2013年度比8%削減 2030年度までに2013年度比20%削減 2050年度までに2013年度比80%削減 食品廃棄物発生量原単位削減： 2021年度までに2013年度比30%削減 産業廃棄物発生量原単位削減： 2021年度までに2013年度比33%削減 埋立廃棄物量削減： 2021年度までに年間排出量300t未満 2030年度までにゼロ 用水使用量削減： 2021年度までに年間使用量2013年度比9%削減
サプライチェーン全体の環境負荷削減	2021年度までにスコープ3の15中6カテゴリ算定
環境に配慮した容器包装の使用促進	容器包装リサイクル法対象プラスチック容器包装の重量： 2013年度比10%減

〈目次〉

- サステナビリティに関する情報開示の考え方
- 編集方針
- 会社情報
- コーポレートミッション
- トップコミットメント
- サステナビリティへの取り組みのあゆみ
- 森永乳業のCSR
- 7つの重要取組課題
 - 7つの重要取組課題
 - 重要取組課題の策定
 - > **取り組み目標の設定**
 - 今後の課題解決に向けて
 - 健康・栄養
 - 環境
 - 人権
 - 供給
 - 次世代育成
 - 人財育成
 - コーポレート・ガバナンス
- データ集
- 第三者保証
- GRIスタンダード対照表

人権



基本的な考え方

人権に配慮した事業活動を行い、多様性を尊重し、あらゆる人々が能力を充分に発揮できる環境をつくります。

活動の方向性	KPI
ステークホルダーとの対話による人権課題の特定と対策	ステークホルダーとの対話実施
サプライヤーによる人権侵害事案の把握	CSR調達アンケートによる実態把握
自社経営に影響を及ぼす原材料ならびに納入先の特定	重要サプライヤーのリスト化
当社グループ(協力会社含む)の外国人従業員への対応	当社グループの外国人従業員の労働環境整備
ダイバーシティ&インクルージョンの推進	【2027年目標】 在宅・サテライト勤務、年休取得率、女性採用比率、女性管理職数、産休取得率、男性育休取得率、介護離職者数

供給

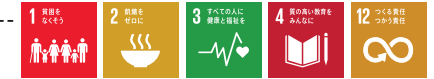


基本的な考え方

安全・安心を重視した原材料調達と製造を経て、高品質な商品を安定的にお届けします。

活動の方向性	KPI
原料リスクに応じた効率的なサプライヤーマネージメント	原料リスク等によりサプライヤーの管理レベルを評価する仕組みの強化
安全かつ高品質な商品提供のための体制づくり	FSSC22000を2020年度中に当社グループ全29工場取得
主要原材料の供給リスク対応	主要原材料の複数社購買、地域分散購買 RSPO 認証パーム油の使用拡大

次世代育成



基本的な考え方

サステナブルな社会づくりに貢献する子どもたちの健やかな成長を応援します。

活動の方向性	KPI
健康で豊かな生活の基礎力を獲得するための食文化や栄養を学ぶ場の提供(食育講座、キッズニア)	2019年から3年間の延べ参加者数: 30万人
自然の恵みと、それを活かす技術・研究を学ぶ場の提供(工場見学、森と食の探検隊、キャリア教育)	同上
次世代を育成する環境の整備	エンゼル110番での継続的な育児相談の実施。2020年度で延べ100万人の相談を受け付け

人財育成



基本的な考え方

「かがやく“笑顔”」を実現する人財の育成に力を入れていきます。

活動の方向性	KPI
経営理念の浸透	従業員公募型フォーラムの毎年開催
ダイバーシティ推進による、従業員一人ひとりの自律的な成長促進	女性リーダー研修 仕事と子育ての両立を促す研修 ブレマネジメント研修の継続的な実施と、若手従業員の人財部による面談実施
グローバルなビジネス環境で活躍できる人財の育成	グローバル人財育成プログラムの推進
健康経営の実践を通じた人財の育成	健康診断の2次検診・再検査受診率の向上: 80% (2023年) メンタルヘルス教育の受講率: 100% (2023年)

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

7つの重要取組課題

重要取組課題の策定

> 取り組み目標の設定

> 今後の課題解決に向けて

● 健康・栄養

● 環境

● 人権

● 供給

● 次世代育成

● 人財育成

● コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

コーポレート・ガバナンス

基本的な考え方

持続的な成長と企業価値の向上の実現に向けて、実効性の高いガバナンス体制の整備および充実に継続的に取り組みます。

活動の方向性	KPI
取締役会における、多様な価値観に基づいた、透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定	取締役会評価における評価点およびコメントの内容(取締役会の多様性、審議内容)
マネジメント体制の強化	各種定例委員会(人事報酬委員会、内部統制委員会、CSR委員会)の充実

今後の課題解決に向けて

森永乳業は2018年度に「重要取組課題」を策定し、2019年度に各重要取組課題のKPIを設定しました。2019年度はKPI達成のため、重要取組課題ごとに進捗報告会を設け、「KPI推進リーダー」を中心として進捗を管理していきます。

また、KPIは世界的な潮流、ステークホルダーとの対話を通じて、適宜議論の俎上にあげ、検討していきます。

各重要取組課題の中で当社としてのリスク認識ならびに世界的な関心の高さから特に注視している課題は、気候変動、海洋プラスチック、サプライチェーン上の人権の尊重(人権デューデリジェンスの実施)です。いずれもKPIとして設定しており、引き続き確認していきます。

今後も社会との共感の輪を大切に、各ステークホルダーとの対話を通じて、課題を認識、解決していきます。